

第3回学校動物飼育支援対策検討委員会議事概要 (小動物臨床部会個別委員会)

社団法人 日本獣医師会

I 日 時 平成22年10月19日(火) 13:30 ~ 16:00

II 場 所 日本獣医師会・会議室

III 出席者

【委員】 桑原保光 群馬県獣医師会 (桑原動物病院院長)

近藤信雄 岐阜県獣医師会会長

須藤正之 滋賀県獣医師会 (須藤獣医科病院院長)

處 愛美 福岡県獣医師会 (ところ動物病院院長)

中川美穂子 東京都獣医師会理事

宮川 保 新潟県獣医師会理事

【文部科学省】 佐瀬宣次 文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程第一係長

【本会】 山根義久 (会長)、細井戸大成 (小動物臨床部会長)

IV 議 事

- 1 前回会議の検討結果 (説明)
- 2 検討報告書の作成について (協議)
- 3 活動状況調査の取りまとめについて (協議)
- 4 その他

V 会議概要

(1) 山根会長から挨拶があった。その概要は以下のとおりである。

ア 先日実施した学校動物飼育に係る全国調査の結果を見ると、地方によってかなり活動にばらつきがあることが見て取れる。この検討会委員の所属県等については活動が盛んであるようだが、これを全国に広めていく必要がある。

イ 虐待、いじめ、自殺等の社会問題に対し、学校動物飼育は解決のための有効な一助となる重要な問題である。文科省には前面に立って、将来を見据えた活動を展開していただきたいと希望しているところである。

(2) 細井戸部会長から挨拶があった。その概要は以下のとおりである。

ア 愛知県では今月、生物多様性会議が開催される。本年は、各地でクマによる被害が多発するなど、野生動物問題が大きく取りあげられている。

イ 学校動物飼育は、動物とのふれあい等を通して、子どもの教育に大きな効果を与えるものとされている。専門家である委員各位には有意義な検討をしていただき、ぜひその内容を全国に向けて発信していただきたい。

1 前回会議の検討結果（説明）

事務局から資料に基づき、前回会議の検討結果について説明が行なわれ、了承された。

2 検討報告書の作成について（協議）

近藤委員長から前回会議の協議内容を踏まえた検討報告書の案が提出され、説明が行われた後、以下のとおり協議がなされた。

（1）報告書の添付資料について

- ア 資料の内容については、地方会等が様々なケースの中で広く活用できるよう、日本獣医師会が様式を示すのではなく、先駆に活動を行っている地方会から参考となる現行の見本を収集することとする。
- イ 資料の収集方法は、日本獣医師会から本委員会の委員の所属する地方会へ、文書にて依頼することにより行う。その際、委員各位には、各地方獣医師会内の資料の収集についてご協力をお願いしたい。
- ウ 収集された資料については、委員長、副委員長が取捨選択をして取りまとめ、各委員に送付し、確認を得ることとする。

（2）報告書の送付について

- ア 報告書を日本獣医師会から地方会に送付する際に、地方獣医師会内に学校動物飼育の委員会を設置するよう働きかけるための文書を同封することを、検討することとされた。

3 活動状況調査の取りまとめについて（協議）

事務局から資料に基づき、活動調査の取りまとめについて説明された後、協議がなされた。

- （1）この調査は、日本獣医師会が地方獣医師会に対して行った調査である。従って、地方獣医師会からの回答をそのまま活用することを原則とする。
- （2）今回の調査結果は、19年度の報告書に倣って、項目ごとに割合をまとめたり、日本地図を用いたり等、分かりやすい内容として、報告書へ添付することとする。

4 その他

- （1）近藤委員長から、資料に基づき、日本獣医師会獣医学術学会年次大会（岐阜）市民公開講座について説明された後、以下のとおり協議がなされた。
 - ア 中川美穂子委員による報告のタイトルを、「学校動物飼育支援対策に関する全国調査報告とガイドラインについて」から、「学校動物飼育支援のためのガイドラインと全国の状況について」に変更する。
 - イ 文部科学省に来賓としての出席を依頼する。

ウ 今回の市民公開講座を、次回以降の学会年次大会等につなげていけるよう、一丸となって盛り上げていきたい。各地方獣医師会の学校動物飼育担当者、役員の方々にはぜひ出席するようお願いする。また、出席いただける方には速やかな大会への事前登録と、交通手段や宿泊施設の確保を呼びかけていただきたい。

(2) その他

ア 学校で飼育される動物の範囲は、前期の本委員会で「学校で教育の目的を達成するために飼育されている動物」定義され、ほ乳類、鳥類、は虫類に加えて両生類、魚類も含まれると解釈するのが妥当であろうとされているが、獣医師が実際に飼育支援する動物の種類については、各地方会の対応に任せるとというのが現実的である。

イ 学校は動物を飼育するよう求められており、それに係る予算がきちんと確保されることが望ましい。普及推進のためには、予算の裏付けをしっかりとしたうえで獣医療を提供できる体制を整えることが必要だが、獣医師としては、学校に協力するという姿勢を保つことも重要である。

VI まとめ

第3回委員会は、近藤委員長により以下のとおりまとめられた。

- (1) 報告書の本文については全員一致で承認された。
- (2) 報告書の資料については、各地方獣医師会から収集したものを委員長、副委員長が取捨選択をした後、取りまとめ、各委員の確認を得て報告書に添付する。
- (3) 活動状況調査の取りまとめについては、19年度の報告書に倣って、項目ごとに割合をまとめる等、分かりやすい内容として掲載することとし、各委員の確認を得て報告書に添付する。

最後に、細井戸部会長より挨拶があった。その概要は以下のとおりである。

委員各位には忌たんのないご意見をいただき、感謝している。学校における動物との触れ合いや飼育の継続の重要性を、文科省のご協力をいただきながら、全国に広めていきたい。